

カーネーション生産における生産性と収益性

1. 調査のねらい

本県の花き園芸は首都圏という有利な立地条件、また、生活水準の向上等により着実な伸びを示している。しかし、花き園芸の経営構造を分析した報告は少なく、収益性については農林水産省の生産費調査の対象外作目であるため経営指針上参考となる資料は不備な状況にある。そこで、本県の代表品目であるカーネーションを対象とし、作型別に生産性と収益性を明らかにした。

2. 調査方法

県内のカーネーション生産農家3戸を対象に経営記録簿の記帳、既存資料の整理及び聞き取り調査により作型別の労働時間、生産コスト、収益性を明らかにし、作型別に特徴を示した。

3. 結果および考察

(1) 調査農家の概況およびカーネーションの作型

調査対象農家の作目の組み合わせは「カーネーション+水稻」である。このうちカーネーションの栽培面積は30~60aである。各農家とも3~5人の雇用を行っており、県内でも大規模な経営である。作型は周年栽培（5月定植、10月~翌年5月ないし6月収穫）に短期栽培（5月定植、9月~12月ないし1月収穫）を組み合せている（表-1）。

(2) 労働時間

短期栽培が1,000時間前後、周年栽培が2,000時間前後であった。短期栽培は周年栽培に比べ700~1,000時間少なく、特に差が開いた作業は「ピンチ・側枝かき」と「収穫・調製」作業であった。

短期栽培が少ないのは、①栽培期間が短いこと、②作業回数や収穫本数が少ないためである。

(3) 生産コスト

短期栽培が270~240万円、周年栽培が470~400万円であった。短期栽培は周年栽培に比べ150~200万円安く生産している。このうち特に差が大きくなる費目は「労働費」、「園芸施設費」、「光熱動力費」であった。

周年栽培が短期栽培に比べ高いのは、①栽培期間が長いため労働費が多くなること、②越冬するため燃料費が多くかかること、③暖房効率を良くするため施設費が高くなるためである。

(4) 生産性と収益性

1) 周年栽培の粗収益はA農家873万円、B農家493万円、C農家598万円とかなりの開きがあった。この主な原因は販売単価の差によるもので、出荷方法がA・C農家が共選共販で高く、B農家が個選個販で低いためである。また、A農家が特に高いのは単価の高いスペレー系品種の作付が多いためである。この結果、所得はA農家が高くB農家とC農家が

低かった。

2) 短期栽培の粗収益は、B農家280万円、C農家379万円であった。A農家は5月の需要期（母の日）出荷を狙った作型で単価は高かったが、一斉に開花したため収穫が間に合わず出荷量が少なくなった。また、越冬する栽培であるため暖房費がかかり、その結果所得は低かった。C農家は秋の需要期の出荷で、単価が比較的高く経費も安いため所得が高くなかった。

4. 成果の要約

作型別の生産性と収益性を検討した結果、周年栽培は長期間収量が確保でき、労働力を年間有効に利用できる利点があり、短期栽培は経費が少なく、所得を高められる利点が認められた。

粗収益（所得）を高めるためには販売単価を高めることが必要である。花の需要期の的確な把握とともに、栽培技術に応じた品種・作型の選定、更に有利な販売体制の確立等が重要である。

（担当 企画経営部 須藤優一）

表-1 カーネーションの生産結果（平成2年産、10a）

農家名	A農家			B農家			C農家			
作型 栽培面積（m ² ）	(参考) 短期 660	周年 4,125	全体 4,785	短期 3,795	周年 2,343	全体 6,138	短期 660	周年 2,310	全体 2,970	
作付け体系	5月 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6	○ ○ ○ ○ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
収量 粗収益 (千本) (千円)	17※ 1,700	115 8,732	101 7,762	66 2,803	108 4,926	82 3,615	63 3,788	103 5,977	94 5,490	
物財費合計 (千円)	1,736	2,821	2,671	1,697	2,165	1,876	1,119	1,917	1,765	
労働費合計 (千円)	827	1,862	1,720	1,014	2,047	1,408	1,314	2,086	1,939	
うち家族労働 (千円)	385	1,083	987	827	1,630	1,133	1,004	1,773	1,626	
うち雇用労働 (千円)	442	779	733	187	418	275	310	313	321	
生産費合計 (千円)	2,563	4,683	4,391	2,710	4,212	3,284	2,433	4,003	3,704	
所得 (千円)	—	5,132	4,358	922	2,343	1,465	2,359	3,747	3,413	
1本当たり価格 (円)	102.9	76.1	76.7	42.3	45.7	44.0	60.4	57.8	58.2	
1本当たり生産費 (円)	155.2	40.8	43.4	40.9	39.1	40.0	38.8	38.7	39.3	
10a当たり労働時間(h)	999	2,093	1,942	1,030	2,145	1,455	1,290	1,949	1,824	
1時間当たり所得(円)	—	5,478	5,096	1,410	1,798	1,624	2,907	2,555	2,544	

注) 1. 家族労賃は1時間当たり男子 1,384円、女子 952円で算出した。

2. ※A農家の短期栽培は収穫を途中で止めたため収量が少ない（収穫予定の2割）。